

県政からの風

県議会政務活動報告書
2018.春号



群馬県大阪事務所にて

内容

- ごあいさつ 1
- 戦略の新駅動きだす! 3
- 関西に情報発信拠点! 5
- 2018年度予算 とちぎを深掘り 7
- <<いちご王国>>誕生! 8~9
- 歌につづった神社復活 10

栃木県議会議員

加藤 正一



人に安心!

暮らしにゆとり!

地域に元気!

ソフト・スマイル・エネルギー!

ごあいさつ

予算修正案でLRT事業を問う!

=第347回県通常会議=

予算審議を主とする2月議会は3月22日最終日、新年度一般会計予算案及びがん対策推進条例、青少年健全育成条例の一部改正に加え、北村一郎総合政策部長の副知事選任同意など可決し散会。



佐藤栄議員

とちぎ創生への取組の加速と安全・安心なとちぎづくり、2020東京オリ・パラ、国民体育大会・全国障がい者スポーツ大会に向けた取組を推進するための総額8,034億1,000万円の30年度当初予算は、好調な市場取引による株譲渡益や配当増に伴う個人県民税、法人関係税等で65億円増の県税収入2,520億円を見込むものの、それでも110億円の財源不足を生じ、財政調整基金からの取崩しを予定する。



斉藤孝明議員

そうした中、県と宇都宮市で設置する市街地開発組合の解散による、残余基金約120億円の活

用方法が問われた。県は昨年末、宇都宮市と芳賀町が進める次世代型路面電車(LRT)事業へ、組合残余金の県配分59億7,300万円に県の一般財源23億3,000万円を加えた総額83億円を分割し支援していくことを決定。

今議会では佐藤栄議員(宇都宮市・上三川町)が代表質問、斉藤孝明議員(同)は一般質問で、山田みや子議員(同)が予算特別委員会でそれぞれ県支援のあり方を質した。

私達会派では、約500億円を投じる大規模事業への宇都宮市民の理解や整備区間における地権者等関係住民の同意、県の支援に関する県民合意が不十分な「民意なきLRT事業は反対」との姿勢のもと、現状での県支援は時期尚早と訴えてきました。



山田みや子議員

加えて、28年度経常収支比率は97.7%と財政の硬直化が進み、医療福祉関係経費等の増加が見込まれる中、今後、大規模建設事業を予定する県は「中期的視点による財政運営」を余儀なくされ、5年後の財政収支見通しでは財政調整的基金から、30年度を上回る140億円を取崩すとの試算により基金残高は113億円まで減少。

その間、35人学級を小学4年まで拡大する30年度以降の全学年実施や、昨年12月議会で採択の陳情「1歳児担当保育士増員」等県事業の補助単価引上げなど、新たな財源確保が求められている。



予算特別委員会総括質疑

よって、21年度以来となる予算修正案を会派として発議し、私から修正案の賛成討論を行ったものの成立には至りませんでした。最終日直前に国からLRT事業が認可されたとは言え、同事業への地権者等関係者の疑問解消・意見反映や市民・

県民の理解促進の進展が図られていないことから、引き続き注視していきます。

私は今回の予算修正案作成に携わる一方、予算特別委員会にて「歳入確保対策」及び「創業支援の充実」、「保育士等キャリアアップと処遇改善」について新年度の取組みに関する総括質疑へ登壇。

(本会議&予算特別委員会等は県議会HPで閲覧・視聴できます)

今議会には中屋大議員(小山市・野木町)を通じ、インターンシップとして5名の大学生が

傍聴や一部会派活動に参加したことで、新たな緊張感を持った2か月に亘る議会活動でした。

予算議会と言われる第347回通常会議を経て、この間の活動の一部を紹介し政務活動報告といたします。



大学生インターンシップ5名を囲み

戦略的新駅動きだす！

＝両毛線あしかがフラワーパーク駅開業＝



あしかがフラワーパーク駅全景

4月から6月までの3か月間、JR全社が国内外に向け取組む大型観光企画「デスティネーションキャンペーン(DC)」に合わせ、本県観光誘客の起爆剤と期待される両毛線新駅が4月1日開業。

県内で35年ぶりとなる新駅は昨年12月「あしかがフラワーパーク駅」に決定し、富田駅から足利駅側へ約1kmの迫間町へ常設駅として設置する。

JR東日本は足利市と協働で沿線の魅力や利便性向上を目指す【戦略的新駅】として整備、フラワーパーク来訪者の鉄道利用率を9%から20%に伸ばし、県南地域及び群馬県へ連なる観光客増を図る。今後、沿線地域間の広域的連携と2次交通の充実が求められる。一方、市は同園繁忙期における幹線道路の交通渋滞緩和対策とともに、中心市街地への観光客の回遊性促進、東部地域の土地利用政策を推進し産業振興に取り組む。

新駅は線路を1面1線方式とし、延長約135mのプラットホームは南側のみで、無人駅とするが繁忙期には社員を配置。ICカードSuica改札機を入出用に各3基設置、改札左壁面の

ガラスブロック内のLED照明で夜間ライトアップし、フラワーパークのイルミネーションとコラボ。

県は4月1日、県庁本館1階県民ロビー及び庁舎前広場において「本物の出会い 栃木」DCイベントを開催し、11時からのオープニングセレモニーに合わせ、市町観光PRや飲食・物販コーナーの出店、ミニ新幹線の運行及び「大人の休日倶楽部」趣味の会によるステージ発表など実施。



駅名板前にて



正面階段

足利市はDC期間中、「相田みつをふるさと展」で商工会議所や足利大学本城キャンパス等4会場に作品展示、足利学校ではライトアップによる夜間特別公開、「あしかが『美』食まつり」による農産物ブランド「あしかが美人」を使用したメニューを市内29店舗で提供するなど特別企画を開催している。



プラットフォーム内駅名表示



改札口

また、個人旅行者向け海外旅行ガイドブック「地球の歩き方」を活用した「足利市版観光パンフレット」を10万部作製、桐生市との合同周遊版35万部と合わせ配布し、2018年足利市観光入込客数で過去最高の481万7,600人を超える500万人を目指す!



足利市観光パンフと栃木県周遊パスポート

関西に情報発信拠点！

＝《栃木のいいもの販売推進本部》大阪センター開設＝

平成 16 年 3 月に大阪事務所を廃止した栃木県は、企業誘致や観光誘客、農産物等県産品の販路拡大など東京事務所に併設する《栃木のいいもの販売推進本部》とともに、関西圏を中心とする西日本での活動を担ってきた。



茨城県大阪事務所入口

昨今の経済状況の動向や圏央道開通に伴う物流機能の向上、企業活動におけるリスク分散の姿勢から東日本進出を検討する事例が増えている。景気回復を背景に 2 府 5 県で構成する関西圏域内総生産は人口同様、国内の 2 割近くに迫る。

県では 27 年・昨年と大阪市内で知事自ら企業立地セミナーを実施。また、本県の認知度向上や JR による全国観光キャンペーン本番を控えた観光誘客に際し、関西県人会や観光業者など関係者からも発信拠点の必要性を指摘している。

私たち会派では毎年の当初予算及び中間期政策要望でも、一番目の項目に「とちぎのブランド力向上・情報発信の強化」を掲げてきた中、30 年度予算には東京事務所の出先として事務所借上料・備品購入費等設置費 10,588 千円、開設後の年間運営費 13,458 千円、観光情報発信費 7,448 千円、企業誘致事業費 5,620 千円が計上。

そこで 14 年ぶりの再開へ他県での取組み、県東京事務所との連携をどう図っ

ていくのか、去る 2 月 14、15 日調査を行ってきた。

14 県が入居する大阪駅前ビルで活動する茨城県は昭和 47 年開設、所長含む正規 3 名、嘱託・臨時職各 1 名計 5 名体制。観光物産 PR 及び企業誘致活動に加え、農政分野でも農産物 PR とともに市場情報の収集・実態調査、競合産地動向の状況・青果物取扱実績資料の作成と“茨城の売り”拡大に努めている。JA と連携した農政イベントは今年度 23 回実施。大阪中央卸売市場の野菜入荷量は全国 7 位、職員の名刺には野菜毎の生産額を表示していた。企業誘致では年間約 160 社へ訪問を重ね、立地実績を挙げている。

しかし、昨年就任の知事は 2 月 23 日新年度予算案と組織体制を公表し、部局を横断する形で企業の誘致や海外進出・県産品の販路拡大、観光誘客など営業活動全般を担う「営業戦略部」を新設。一方で、交通や情報交換手段の利便性向上から北海道・大阪事務所を廃止するとし、今後の取組みがまた注目される。

群馬県は平成 18 年併設の観光案内所を廃止、4 名体制（嘱託 2 名）のもと茨城・長野・新潟・山梨・静岡の 6 県在阪連絡協議会での観光物産展、入居ビル内各県事務所協議会による「ふるさとの観光と名産品まつり」を開催。

約 1,300 会員で構成の関西経済連合会に加入



茨城県大阪事務所調査風景



新潟県アンテナショップ「じよんのび にいがた」

し情報収集に努めながら、主力の自動車産業を背景に平成 8 年、名古屋にも同規模で事務所を開設した。

昭和 57 年大阪事務所を廃止した新潟県は平成 4 年再開、14 年から愛知・岐阜・三重県の中京地区へ拡げ、現在西日本全域を対象に活動。北陸新幹線開業を契機に併設の（公社）県観光協会大阪観光センターと連携し観光誘客増に取り組む。26 年 4 月には観光・物産情報を効果的に発信するための拠点「じよんのび にいがた」を開設、県産品の販売・観光情報の提供を行う。

事務所は観光協会と合わせ常勤 10 人体制、アンテナショップは梅田地下街にあり鉄道各駅や百貨店・周辺ビルと直結し、1 日約 40 万人が行き交う商業地で営業。約 17 坪のスペースで約 800 アイテムを品揃えし新潟の“おいしさ”を発信し、28 年度は来店者 125 万人、販売額 1 億 1,242 万円とオープンから順調に推移している。

近畿エリアでの本県魅力度が低いことは発信拠点不在の影響が否めず、そのため在阪関東ブロック連絡協議会が合同開催する観光物産展にも出展で

きない。とちぎの豊かな魅力を PR する上で、より集客の見込めるイベントへの参加が効果的であることは必然である。久しぶりの大阪進出に先ずは、関西人の気質・気風に触れ、人間関係づくりから“とちぎ”を発信!



新潟県アンテナショップ店内

2018年度予算 とちぎを深掘り

＝新年度予算案&会派要望知事回答＝



会派予算要望知事回答

のJR全国観光キャンペーン(DC)本番を迎え、観光誘客と県内周遊性向上のツールとして5年目となる「本物の出会い 栃木パスポート」の電子化など《施策の磨き上げ》も実現。

また、酪農・畜産者が行う家畜や受

福田知事は2月8日、2018年度当初予算案を発表し、前年度比125億減(△1.5%)と2年連続減少の8,034億1,000万円とした。県単貸付金を108億円大幅に減額し、公債償還金もマイナス金利導入に伴う低金利により20億円減を見込む。

歳入では個人県民税及び法人関係税等65億円増により県税収入を2,520億円で計上するも、医療福祉関係経費の引続きの増加から、財政調整基金を今年度ほぼ同額の約110億円取り崩し、財源を確保する。



知事回答説明

知事は予算案公表に先立ち、議会各会派から提出された「新年度予算及び政策推進要望」に対する回答を行った。私たち民進党・無所属クラブでは那須雪崩事故再発防止対策やフリースクールによる普通教育機会の確保、民泊新法に伴う県条例制定及びマイナンバーカード活用による県民サービスの利便性向上など新規5項目を含む31項目を要望し、19項目に亘り有額回答を得た。

医療的ケアを必要とする母子への支援事業創設や今年度スタートした生活困窮対策「子どもの居場所づくりサポート事業」による市町への補助期間延長、本年4月

精卵の導入支援といちご栽培へICT技術を活用した環境制御技術の促進、女性の県外流出対策に関する都内在住20～30代女性向けのUIJターン情報発信等事業の具現化を図りました。

一方、国の介護職員処遇改善に関する調査結果を踏まえた県独自の実態調査や1歳児担当保育士及びアレルギー対応調理員の県補助増額、民泊に関する条例制定など今後の検討課題となった項目も…。

さらに、国が計画する指定廃棄物最終処分場設置問題の長期化に伴い、稲わら等農業系副産物の保管農家における負担軽減に、県が意見交換の機会を設け取組むことや、財源不足から基金を約110億円を取崩す状態が続くことで、宇都宮市街地開発組合残余金をLRT事業に活用せず、一般財源として県施策に幅広く充てるよう求めましたが見解は平行線となりました。



知事回答記者クラブ説明

《いちご王国》誕生！

=1/15いちご王国・栃木の日宣言=



福田富一いちご王国国王

昭和20年代から収益性が高く水稲の裏作として始まった栃木のいちご栽培は、その後、低温処理技術の開発による2月出荷へと「早出し」の挑戦や育苗技術の確立による年内出荷への試行、「女峰」「とちおとめ」「スカイベリー」など高品質なオリジナル品種の開発と経営の大規模化等、本県のいちご生産・販路拡大に関わる先人たちの努力の積み重ねにより、県産いちご生産量が50年連続日本一となるのが昨年の農林統計で明らかとなり、名実ともに「いちご王国」の地位を確立！

15日を「いちご王国・栃木の日」として設立宣言した。

議事堂1階ホールでの記念セレモニーは、宇都宮短大附属高女子生徒のオリジナルドレスによる艶やかなファッションショーで開幕。今年度統計グラフ全国コンクールで入選した坂本真愛(まな)・翔汰(しょうた)さん姉弟が、いちご栽培の歴史と実績を統計資料で紹介した。



いちご王国記念セレモニーファッションショー

「いちごと言えば栃木」とのイメージを改めて国内外に向けてアピールし、4月からのデスティネーションキャンペーンでもPR効果が期待されることから、1月



いちご王国・栃木の日宣言式

福田富一国王の「いちご王国・栃木の日」宣言に続き、生産者代表・畠山奈々子さん、食品関係代表・柳田陽平さんらから「若者が夢をもてるいちごづくりの実現」「王国ならではの商品開発やサービスで栃木の魅力発信」を「国民の宣言」として高らかに読み上げ、セレモニーを締めくくった。

その後、1月27日には佐野プレミアム・アウトレット、2月3日宇都宮バンバ市民広場、同10日は那須ガーデンアウトレットなど2月11日までの毎週末、県内5カ所で「いちご王国」イベントが行われ、多くの人が県産いちごの美味しさを実感!



いちご王国皇太子?!



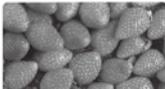
栃木県がいちご王国である理由!!

理由 1

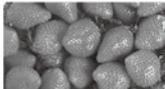
栃木のいちごは一年中楽しめるんです!
四季折々、味も形もいろいろ、4種のいちご。



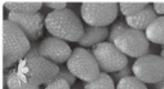
スカイベリー
太粒できれいな色と形。すっきり甘く、ジューシーなおいしさ。歯先へのこぼりや、大切な人への贈りものにぴったりな「ハレの日」いちごです。
栽培時期：11月～6月



とちおとめ
味が濃く、果汁たっぷりの味わいが身上。甘みと酸味のバランスがとれた菓実は、冬の関東平野に熟りたく、太陽の恵みそのものです。
栽培時期：10月～6月



とちひめ
栃木県内の観光いちご園でのみ食べることができるといって、産がやわらかく、太粒で中まで赤く、ジューシーで甘みが強いいちごです。
栽培時期：12月～5月

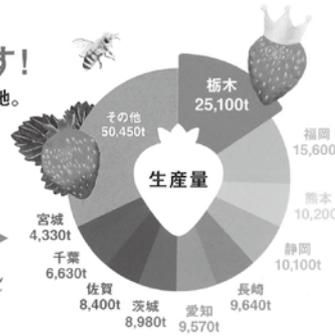


なつおとめ
夏場に収穫できるいちごで、酸味が強く、夏のジュワートなどスイーツに最適。種に物と中心が赤いハート型になるのが特徴です。
栽培時期：7月～10月

理由 2

生産量が日本一なんです!
すくすく育つ、いちごにとって恵まれた大地。

生産量は25,100tで、昭和43年度から
**平成29年産まで
50年連続日本一**
※平成29年産は販売実績から推計



生産量

栃木	25,100t
福岡	15,600t
熊本	10,200t
静岡	10,100t
長崎	9,640t
愛知	9,570t
茨城	8,980t
佐賀	8,400t
千葉	6,630t
宮城	4,330t
その他	50,450t

理由 3

日本で唯一のいちごの研究所!

50年連続日本一となった「いちご王国」は、生産者の方々の熱い思いと日々の努力、そして、日本で唯一のいちごを専門とした研究所が支えています。より美味しいいちごをみなさんに届けるため、新しい品種の育成や栽培技術の開発に取り組んでいる、いちご研究所。その名前のとおり、建物は遠くからでも目立ついちご色。蛇口までいちごの形をしてるんです。



遠くからでも目立ついちご色



正面看板にいちごのマーク



蛇口までいちごの形!

あなたも 栃木のいちごの美味しさを広める伝道師へ!!

歌につづった神社復活

＝ヒット曲《渡良瀬橋》八雲神社再建＝



八雲神社正面

額約六千万円に上った。

八雲神社は869年に三陸沖で発生した大地震の鎮守のために、清和天皇が右大臣藤原基経に命じて創建。以来、東国の第一勅願所(ちよくがんしょ)として国家安泰・疾病退散を祈願した歴史ある神社です。

再建にあたり三重県伊勢神宮から、式年遷宮した内宮の別宮「月讀荒御魂宮」の古い社殿を譲り受け移築。

今後は、周囲に庭園や神楽殿などを整備する予定とされ、何れは森高さんに拝殿で歌う(?!)機会を作って頂ければ最高です!

平成24年12月、不審火で全焼した足利市緑町1丁目の八雲神社が再建され、昨年12月9、10日の両日に落成式が行われた。奇しくも、焼失した日が12月9日であり、5年という歳月をかけ復興再建に奔走されてこられた方々に敬意を表します。

歌手の森高千里さんが歌ったヒット曲「渡良瀬橋」に登場することでファンも参拝に訪れるなど、曲中で紹介された渡良瀬川から見る夕日や近くの公衆電話等それぞれが観光スポットとして親しまれてきた。落成式では、再建の喜びを伝える森高さんからのメッセージも紹介。

再建に向け櫻木宮司並びに奉賛会、復興再建委員会など関係者の努力の中、森高さんもコンサートで募金の協力を呼びかけ支援。

全国からも再建に向けた支援金が寄せられ、寄付は神社関係者初め地元内外から約一千件、総



神社本殿



神社本殿内部

